

幻の広浜鉄道

シビル NPO 連携プラットフォーム 理事
NPO 法人州都広島を実現する会 事務局長 野村 吉春



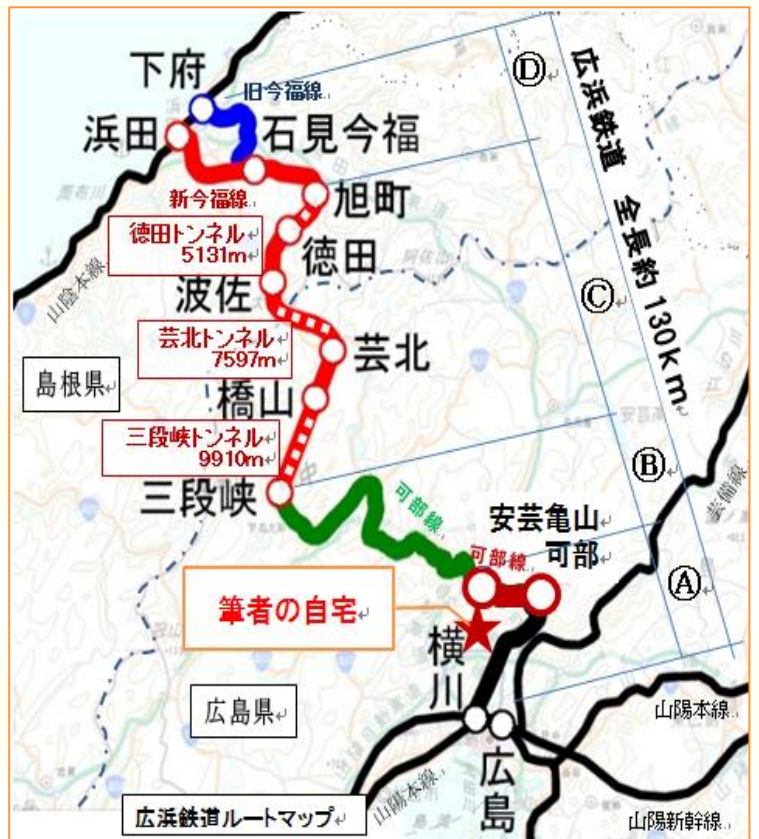
■はじめに 「土木マニア」とか「鉄道ファン」が多数いらっしゃる。私的には、「こんな建造物が、この場所に、何故に造られたのか？」という、そんな不思議な光景に胸がときめく。私は広島市安佐南区に住んでいるが、この度は「身近な土木遺産」ということで、自宅から駅まで10分の「JR可部線」の歴史にも関係のある、「身近な話題」を紹介します。



最新レッドウィングが走るJR可部線・安芸亀山駅

■ 広浜鉄道とは 広浜鉄道とは、広島市と島根県の浜田市とを結ぶ総延長 130 kmに及ぶ、「未完の陰陽連絡鉄道」の路線名である。(右図を参照)

広島県側は、明治 39 年に民間会社で横川～可部間④が着工。国鉄に引き継がれ、戦争を挟んで昭和 44 年に三段峡⑤まで開通。平成 15 年に可部～三段峡間⑥が廃止。何と、平成 29 年に可部～安芸亀山間 1.6km が電化により復活した。(④が現在の「可部線」の供用区間、右上の写真参照)



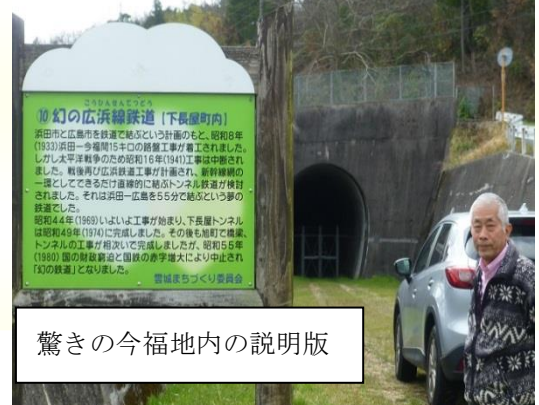
⑥区間には、膨大な鉄道遺跡が存在するが、わずか十数年前の廃線を「土木遺産」と呼ぶのは、いささか興を削ぐので、この 45km に及ぶ廃線遺跡は今回は触れない。

今回のメインステージは島根県側の話題に着目したい。昭和 8 年に山陰本線の下府(しもこう)から着工され～旭町までの「今福旧線」(青色の①)を完成し、昭和 15 年に戦争で中断。昭和 44 年に浜田から「今福新線」(赤色の②)として着手、昭和 55 年に工事中止となる。

■ 新幹線規格？ 私は、今福地内の説明版に驚いた！

「幻の広浜鉄道」と題して、新線は「広島～浜田間を 55 分で結ぶ『新幹線』として、昭和 49 年に①の区間を完成した」と書かれているのではないか！(右下の写真参照)

そこで県境をまたぐ③の区間について調べると、何と延長 10 km の長大トンネル含む複数本、掘削工事に着手。工事の痕跡や縦抗などを現地で確認した。



驚きの今福地内の説明版